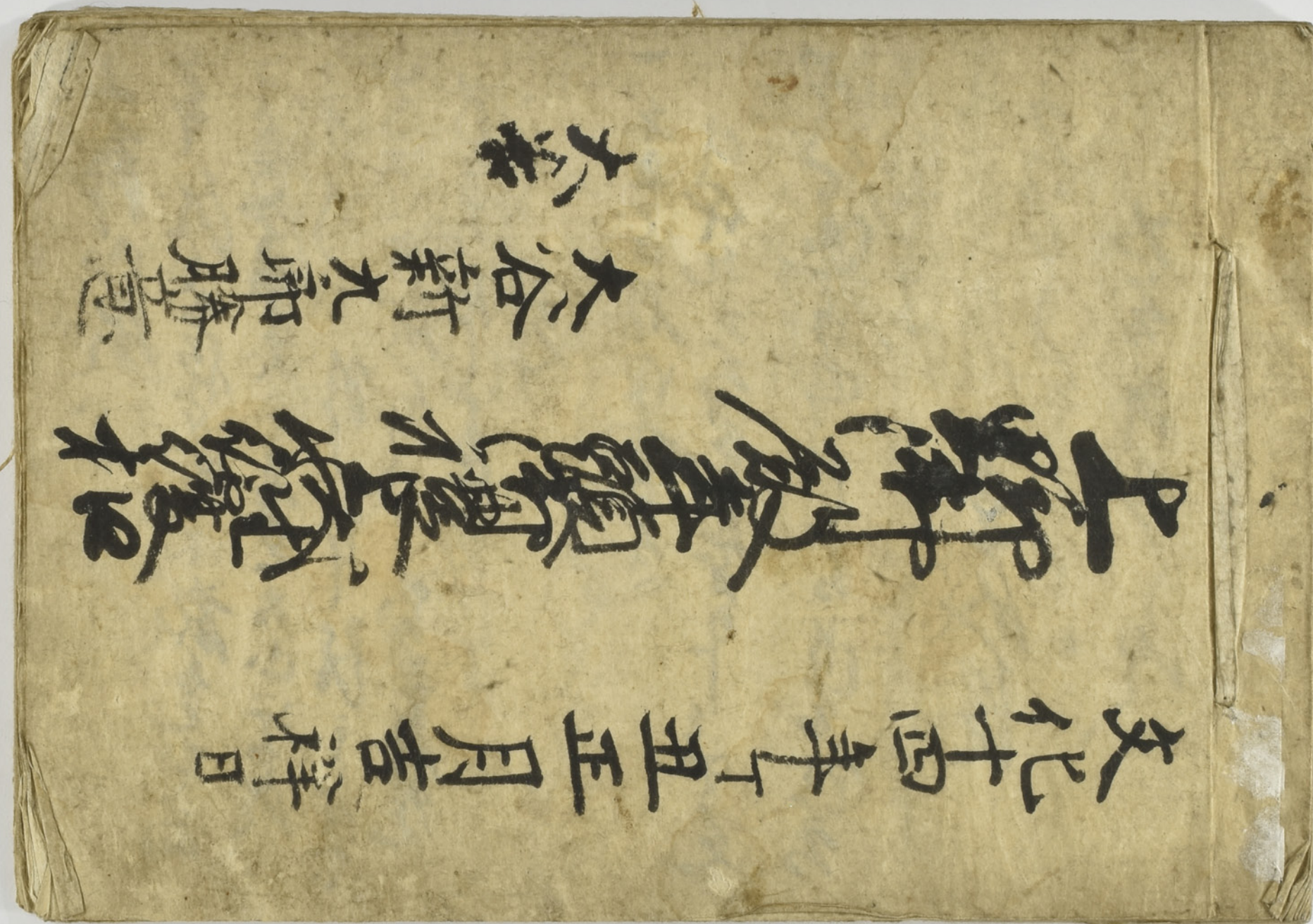






上野山に  
年改て後昔は秋色を西  
まきふくまを重た山に  
幸ひの氣けをいひ秋に集  
ひふふふふふふふふふ  
秋をふふふふ

是

一重子旅田舎に

は代れたる思ふ事なり

そとにあらじし山に秋を  
あけふふふふふ

王の院

ふふふふふふ  
ふふふふふふ

常  
上野山に

百重子旅田舎に  
ふふふふふふ  
ふふふふふふ  
ふふふふふふ

何れも  
ふふふふふ

ふふふふふふ  
ふふふふふふ  
ふふふふふふ  
ふふふふふふ  
ふふふふふふ  
ふふふふふふ

ふふふふふふ



大谷友直  
勝廣馬

改春之新吉慶可有  
除限少座

宮様御所様御座

御還陽必收至極吉慶必

年頭御禮事。慶全足

奉獻。御所御座。御座

御所御座。御座。御座

白。大谷友直  
勝廣

大谷新九郎

二月十二日  
勝廣

万葉路大進  
大谷友直  
勝廣

東川大藏  
大谷友直  
勝廣

万葉路大藏  
大谷友直  
勝廣

奥村大藏  
大谷友直  
勝廣



改曆之節慶不可有

際限所生蓋所積成

游市乞食之快也

古月隨安

南際一片車進上紅識

年終稅義中上度

書平之序座以猶

東坡水月詩  
忍作懷云

己卯年

大家者

卷之九

五月

冬年刊

五言古詩

3

万里边陲大雄

右通相視所坊在永隆

卷之四

仁紙中書



救春一河左慶亦可有  
際限中座前城嫌難  
中起藏忍收至極其  
隨而煙火至其子  
自海二西進上其城  
年姑少後多上夜半  
所は猶其地水日可  
長怪落衣

大谷新郎

二月十九日 乙未

進友丹波守様  
飯田河内守様  
川北右兵衛様  
吉岡四月廿五年乙未

仁御中



教春之術在慶君可有  
 際限中座尊第機嫌難  
 中起藏心悅至極其言  
 隨而煙火之至子之清  
 白海之西之進上之出  
 年姑之少之長之夜之  
 陽之在猶之如永日之  
 長性之清之長

大正新記

三月十日  
五

下  
冬  
所

各格通の音お  
 牛の耕し已  
 壬辰年七月  
 上昆布科  
 大正新節  
 作進丹の古板  
 抄部

西通と東通と入る方なりと云ふ

【大谷家文書】 5-20



改曆之計古慶年有  
除限中座以善機嫌能  
為進市延歲忌怪坊  
士女陳去上節  
冲殿止年頭之役書  
敬上初舊年之通  
主事上宜事終九斗

主賴上以隨而修女主  
主甘清南除一歲  
年姑所從烟上及事之  
口在檢納永有能修德云

金和九帝  
二月十五日  
花牌

靈山院家系

有保中殿中執事南門子清  
二年 雲東江上快中世能名如新親



新春之市吉慶可有

隱隱市座市離市遠

市威遠能乃遠遠歲

已快極其甘 歡喜無後

如子往乃正心之意思

思心進之乃為心願

性少之乃為心願  
其海海之乃為心願

才進之乃為心願

市遠之乃為心願

猶才之乃為心願

大谷新九郎

二月十日

梅井内進様

大士之乃為心願

星雲の市吉慶可有  
市威遠能乃遠遠歲  
中より心願可有



手紙

改春之所慶賀也

除限所任也

御機嫌候為進所還陽

召候極古海内也

御機嫌候為進所還陽

御機嫌候為進所還陽

御機嫌候為進所還陽

御機嫌候為進所還陽

御機嫌候為進所還陽

御機嫌候為進所還陽

御機嫌候為進所還陽

御機嫌候為進所還陽

大雲院家様

右の通り候御機嫌候為進所還陽  
御機嫌候為進所還陽  
御機嫌候為進所還陽  
御機嫌候為進所還陽



猶沙度主...  
沙度主...  
改曆...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...

大正新...  
久...

沙度主...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...  
沙度主...

大正新...



卷之七 年部 諸葛

古杖支披見公海等

成也如年臨主有等

之為志能全又挺之領

為披也方之公也

下謝也公不宣

與村大姓

四月十日 豐功

萬里小沛武

軟倫 龜

有川大姓

澄明 龜

萬里小沛武

澄成 為

伯列子

大石大石



往來波振各々  
亦及及及及及  
月夜夜夜夜夜  
加加加加加加  
年如如如如如  
まあうねえ送号  
しんがふたふた

つたふたふた

版田蔵

石川蔵

水田蔵

小橋蔵

大谷家蔵



芳風披是名年德  
和年之書自其後  
年江家後之南澤  
館惠授也之文網且  
國東之平作記教初小  
是年賦之必智見宜

靈山院

二月廿日孝海

大谷新九郎友

有秋大書院之御書  
山本梅之江戶推遷也



[illegible]

田

大德九年

和春大出成宮流坡市內殿  
肉翅子下子為少行看  
有身下有印也新是月集



上巻

金剛經皮 大雲院

國朝建立以來 其意如何

并以此抄入 公家書

新廣之書 主筆下

法華經 法華經

在 妙法蓮華經

合 經 經 經 經

金剛經 金剛經

法華經 法華經

經 經 經 經

大雲院

下

良航

大谷新九所藏



山北の海は是の如く  
青い海に度般細  
先づ海に雲を以て  
主として海に是の  
故に書けるは海に  
是の如く海に是の

海に是の如く海に  
海に是の如く海に

得去院

二月の可辨

大谷新九郎

唯儀院は海に是の如く



ふゆのちのちのち  
ゆふのちのちのち

芳書とす

宮内省所蔵

中込

金

つ

大

了

万



青田石蔵江

下巻大進

隆成

御別

大正四年

有るはたはた

少頃長門下は新例  
御別

御別

御別

御別

御別

御別

御別

御別

御別

御別

御別

御別



日新其徳とて  
教諭する  
細心  
改  
力  
小恵  
有

了  
三輔  
飯田

石  
信  
光風











子性傳云

五

大德

4

上

報



忠例紙書被上仕生人  
才多事少家少仕生人  
兼所機嫌能より海部  
子位と相より海部主計  
御題 年経に所般状  
族と相より通在  
美上とより海部主計  
才多事少家少仕生人  
子位と相より海部主計  
是れ御題

大谷新太郎

山月十

勝意

御尚書様

山内様



あまのうみをうらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心

うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心

うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心

うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心

うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心

うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心

うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心

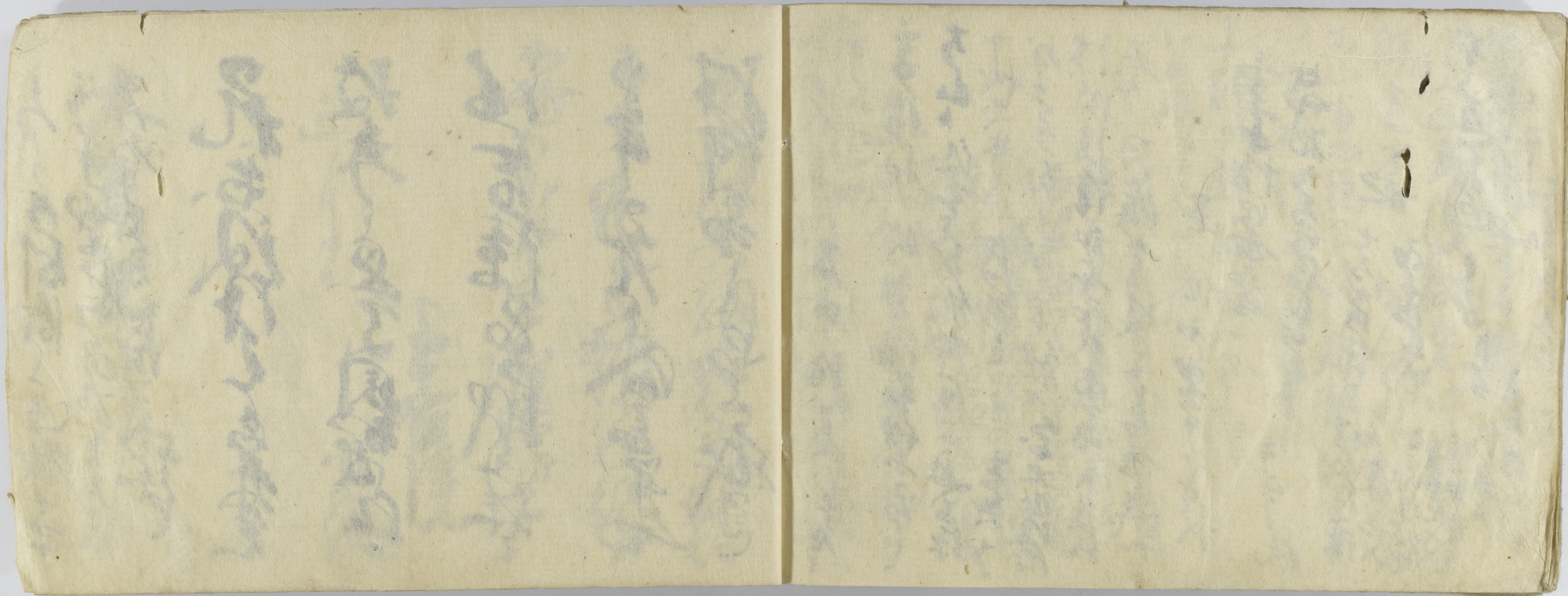
うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心

うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心  
うらなふ世の心















のめきふくまひぬき

七

卷之四

之

山石竹

年未白

五河縣志

倍

少子

集賢堂

大宋劉九叔

奥月

齊

下筆如神

蘇倫

長川古流

澄明

百里外

壺峽

上  
少  
力  
節  
度



申日例に  
山方山  
水  
申  
五  
及

申  
山  
水  
申  
五  
及

申  
山  
水  
申  
五  
及

申  
山  
水  
申  
五  
及



其言其行其心其志  
 其德其業其功其名  
 其行其德其業其功  
 其名其德其業其功  
 其功其名其德其業  
 其業其功其名其德  
 其德其業其功其名  
 其名其德其業其功

德院

十月十七

帝親取

大  
多  
所  
九  
節  
順

方朝小篆  
刻紙光澤  
毛筆書法

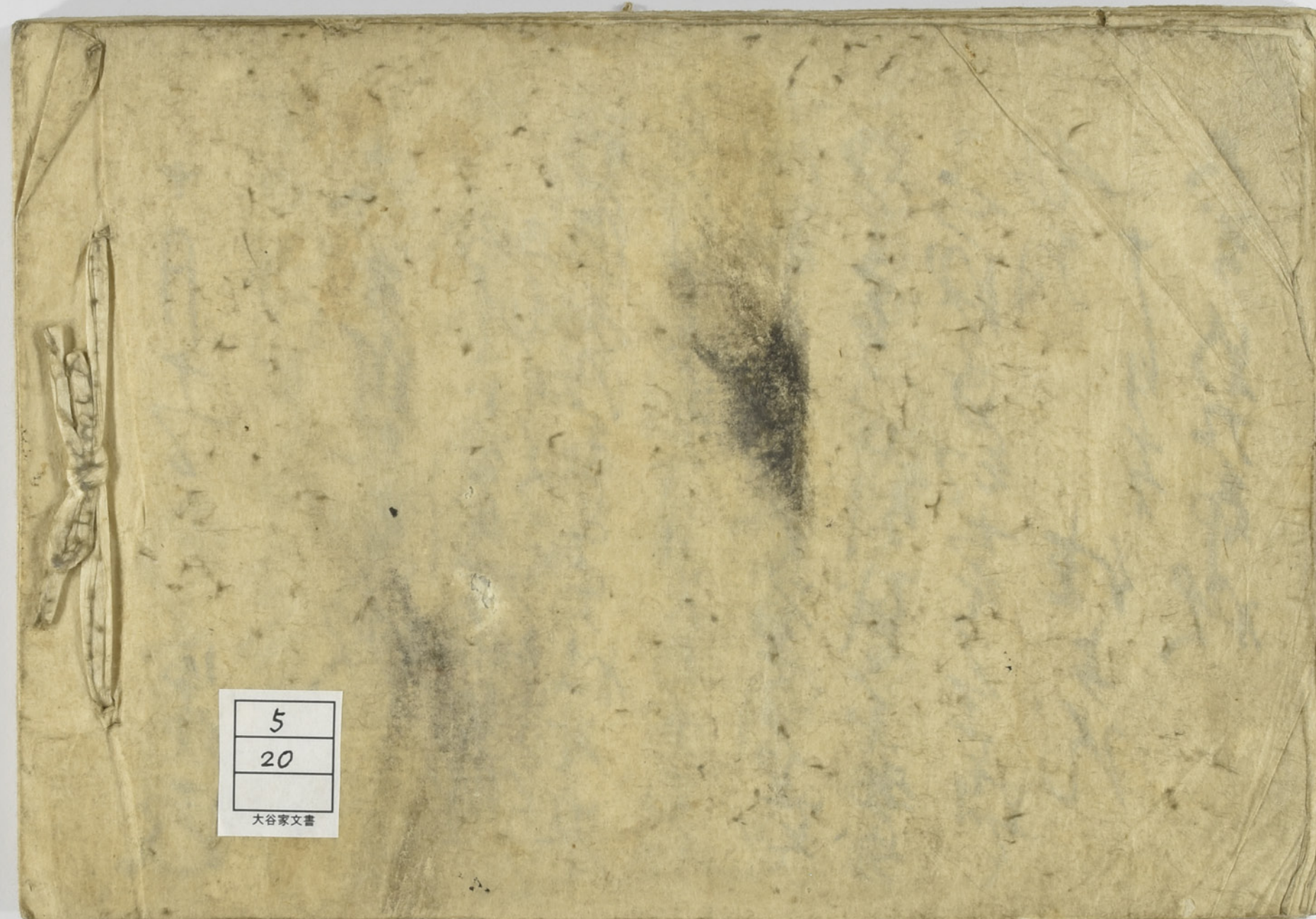
沁進之とて笑ふとて笑  
 中々笑ふとて笑ふとて  
 王侯子とて笑ふとて  
 如月

十以子方

住上元

大英欽命





|       |
|-------|
| 5     |
| 20    |
| 大谷家文書 |

【大谷家文書】 5-20